



史蹟史料部

2022 年 4 月 25 日

#4

# 日本人墓地公園 ニュースレター

## からゆきさんのお墓 精霊菩提の石碑

今回ご紹介するのは日本人墓地公園の歴史を知る上で欠かすことができない「からゆきさん」のお墓のお話です。日本人墓地公園には、からゆきさん達の小さなお墓が多数残っています。ニュースレター#1でご紹介した、ひのもと地蔵尊が見守る方向に、小さなお墓がたくさん並んでいます。

日本人娼婦が初めてシンガポールに現れたのは 1870 (明治 3) 年頃であったと言われており、日本人娼婦の女性たちが一般的に「からゆきさん」と呼ばれるようになったのは、戦後とりわけ 1970 年代以降のことでした。しかし、島原、天草、長崎などの地域では、以前から中国、東南アジアへ出向いて、「娼妓」(しょうぎ)として働く女性を、「唐国(中国)へ行く女性たち」と婉曲に呼び、それを略して「からゆきさん」と呼んでいました。

親の借金のカタにと騙されて東南アジアへ売られてきたからゆきさんたちは厳しい環境で働き、若くして貧困のうちに病没した者が多く、墓は大半が木標でしたが、歳月がたって朽ち果てたものを共済会が無名のまま「精霊菩提」(せいいいばだい)とのみ文字を刻んだ小さな墓石を建て、死者の冥福を祈りました。それは当時の日本人たちの心やりであり、からゆきさんたちが亡くなって初めて受けた温かい人の思いやりであったのかもしれません。

共済会とは日本人会の前身で、二木多賀治郎が 1888 (明治 21) 年に発足させました。共済会は、獄死者及び斃馬の埋葬地に埋められていた邦人の遺骸 27 体を掘り起こし、二木の提供した土地に改葬しました。これがやがて日本人墓地となりました。共済会は日本人墓地の管理維持、貧困者・病人の世話、死亡者の埋葬など日本人社会の相互扶助の役割を果たし、日本人会へ発展する基盤を作りました。



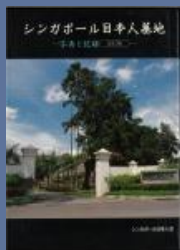
からゆきさんのお墓のほとんどは小さな石碑ですが、中には大きなお墓もあります。からゆきさんたちは借金のカタにと働かされていたため、とても貧しい暮らしをしていました。それでもいつか故郷の親や弟妹にお金を送り、暮らしを支えてあげたいと夢見て、客からの心づけを密かに貯めている者もいました。

からゆきさんは二十歳そこそこの若さで亡くなった者が多く、当時の粗末な避妊薬により身体を壊して亡くなっていました。そして貯めたお金を「日本の家族に送ってください」と仲間に託したのです。そのように何人ものからゆきさんたちのお金が入った袋を娼館の親方が見つけた時



には、もう彼女たちが日本を出てから長い時間が経ってしまい、今さら日本の家族に送ることはできない、それであればこのお金で立派なお墓を建ててあげよう、そのように残されたのが大きなお墓でした。

日本に還ることも、家族にお金を送ることも叶わずに亡くなっていったからゆきさん。現在のシンガポールは日本人女性にとって、世界の中でもとても住みやすい国ではないでしょうか。しかしシンガポールの歴史の中には、このような女性たちが存在したことを心に留めながら、日本人墓地公園を訪れていただければと思います。



日本人会クラブショップでは史蹟史料部発行のオリジナル書籍を販売しています

「シンガポール日本人墓地 - 写真と記録 - 改訂版」

\$42.8



出典：墓地設置サインボード、ビデオ「シンガポール日本人墓地公園」ボランティアガイドインタビュー（顔 タ子さん）  
2014 年制作・著作 シンガポール日本人会